

2020年6月15日

学校法人三幸学園  
広島リゾートアンドスポーツ専門学校  
校長 三川 和輝 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 森下 圭

### 学校関係者評価委員会実施報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 田中 好行 (有限会社 マリエフィットネスサポート)
- ② 末光 憧伍 (第4期卒業生)
- ③ 森下 圭 (飛鳥未来高等学校 広島キャンパス キャンパス長)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年6月15日 (会場 広島リゾートアンドスポーツ専門学校 502教室)

##### 3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 広島リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 伊勢 泰和

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長 森下 圭

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

\*「継続」～結果にこだわる～

・スタートアッププログラムで学ばせた事を継続させる事に注力する。教員があきらめない教育をいかに継続できるかが勝負。

・資格、精皆勤、退学者数の目標数値の必達。

退学者数目標、5名以内 精皆勤目標、65%

〈振り返り〉

退学率・皆精勤率も目標に大きく届かなかった。

・スタプロでの指導内容を継続する事が出来なかった。

・生徒の変化に早期に気付く事が出来ていなかった。

\*学校の指導方針や目標について十分に理解されていたとはいえ、態度・マナーにおいて問題のある生徒が散見した。

\*地域連携活動においては、ボランティア活動の活性化と県サッカー協会との教育連携の締結に向けた動きだしが出来た。今後天皇杯や皇后杯など県サッカー協会が主催する大会運営に参加する事で合意。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

\* 田中委員(スポーツインストラクター科について)

数値目標や学校としての課題など目につく場所に掲示をして、教員一丸となって取り組める環境設定が必要ではないか。

\* 末光委員(スポーツトレーナー科について)

クラスの雰囲気醸成する事が肝要。私が在籍していたク際のクラスの雰囲気は良かった。

在学期間中はたくさんのチャンスがあったが気付く事が遅かった。そのチャンスに気付かせていく事で目標に変わるのではないか。

\* 森下委員(スポーツインストラクター科について)

学校の魅力、業界の魅力づくりの中で学びながら目標を見つける事も必要ではないか。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

学校としての理念や教育目的などの方向性は明示している状況だが、カリキュラムに落とし込まれた理念や教育目標を学びと結びつけるための工夫が必要。また保護者への周知の機会を十分に確保することが出来なかったのではないか。

#### ② 今後の改善方策

教職員会議及び意見交換の機会を作り、学校の理念・目標とそれを実現するために手段についても周知徹底を図る。また、生徒・保護者に対しても適宜方向性を伝え、理解を図るよう努める。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

\* 森下委員(スポーツトレーナー科について)

高校における保護者への周知方法はほぼ同様になっている。特段の問題は感じていない。

\* 田中委員(スポーツインストラクター科について)

業界ニーズに準じた育成人材像を設定していると感じる。求められる能力は変遷が多い業界なので常に業界の発信にアンテナを張っておく必要があるのではないか。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

全国展開の学校法人の根幹となる運営方針、事業計画の策定、また人事労務制度等も充実している。また年々注目度の高まる財務状況や、コンプライアンス遵守に関することも、注意喚起の実施及び適切な運営が出来ている。

### ② 今後の改善方策

労務の改善、および事務的な事故防止のために、より効率的で正確な業務処理を可能にするシステムの導入および、人員確保が必要である。業務の分散と見直しにより、教育効果を上げるための人員配置を検討していかなければならない。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

\* 田中委員(スポーツインストラクター科について)

労務改善は業界全体の課題であるが、徐々に改善傾向にある。健全な環境が整っていないと雇用に繋がらないという事が業界全体の認識になっている。学校における就労環境の改善はひいては生徒の額種環境への影響も出るのでは是非とも行って欲しい。

\* 末光委員(スポーツトレーナー科について)

仕事に対するモチベーションを高める意味でも課題があれば改善を行ってほしい。身近な社会人としても生徒の鏡として働ける職場環境を設定するのは良い事だと感じている。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修を体系的に実施していくことが必要である。教育課程の編成については、現場で働く教員が多いためタイムリーに情報を入手することができる。またトレンドも短いスパンで変遷していく業界であるため、情報を収集することが非常に重要であるとともに、情報交換の機会を創出することが肝要である。

#### ② 今後の改善方策

スポーツ分野姉妹校全体でのスケールメリットを活かした業界との連携・企業との繋がり(教育課程編成委員会)を自校に落とし込むと同時に、その繋がりから関係者を招聘して関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修を定期的実施する。

地域で開催される様々なスポーツイベント等へ、積極的に参加させ生徒自らが自分に有用な情報を収集する能力を開拓させる。合わせて、学校側からはその一歩先を行った日本全体の動き、またはグローバルな動き・トレンドを把握し、生徒へ還元していくことが必要である。

教科担当の中には現役で現場の仕事に就いているものも多いため、学内での情報収集の機会も意図して創出していくことが肝要である。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

\*末光委員(スポーツインストラクター科について)

資格を取得する事も重要だが、資格を取得する過程で得られる経験も重要。そのポイントに視線を向けさせることで最終的に取得に至るのではないかと。

\*田中委員(スポーツインストラクター科について)

資格取得も重要だが、現場では応用力も求められる。実習などで学ぶことへもモチベーションを与えていく事が必要だと思う。

#### (4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

##### ① 課題

卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保するためのWEBシステム(SNS)が稼働し始めたが卒業生への周知が課題。このWEBシステムを活用し、継続的に卒業生の活躍を評価し母校へ還元してもらうシステムの構築までは稼働しているが、活性化において課題感が残る。

##### ② 今後の改善方策

在校生への周知を実行し、卒業後サポート体制が構築されていることの発信に積極的に介入する。また地域で活躍する卒業生を介して情報発信と卒業生の参加率を高めていく活動の実行。

学年において中心的存在だった卒業生から拡散的な発信を依頼するなどして周知を図る。

##### ③ 特記事項

なし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

\*森下委員(スポーツインストラクター科について)

資格の価値などについて教員が同じ認識を持っている事が必要。

\*末光委員(スポーツトレーナー科について)

身近で活躍している卒業生を招聘し、講演会などで在校生を接する機会を作ってはどうか。目標となりうる存在を提供して行くことで目的も明確になるのではないかな。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2

### ① 課題

就職に関しては情報量の不足により首都圏への就職希望者に対して十分な情報提供が出来ていなかった可能性がある。経済的負担については国の支援との連携により低減への取り組みが活性化している。保護者との連携については、入学後はクラス担任からの適宜連絡、学校からの定期的な刊行物による情報提供、という体制を取っている。保護者については学校とのコンタクトを取れる体制ができるとなお良い。卒業後の支援については、リクエストがあれば惜しみなくフォローアップする体制はあるが、連絡待ちの姿勢であり、相談等がなければ難しい現状である。再就職先、進学時の書類作成など要望には応えている。また、社会人の学び直し先としては、まだまだ環境が整っていない。

### ② 今後の改善方策

就職、学生相談については個々のニーズや課題の多様化により十分な経験と知識によるサポートを行うために様々な研修などを取り入れていく必要がある。保護者との連携は、支援が必要な生徒にとっては重要であり、入学時に連絡手段等を詳細に把握していく必要がある。社会人の学び直しを支援するためには、多様な学び方を選択できるシステムを学園として検討する必要がある。（科目履修生、ターム制による単位取得を可能にする、など今後検討の余地あり）

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

教育環境は整っており問題ない。

実習活動については、ボランティア活動に注力を行い、活動先の確保ができた。また県サッカー協会との教育連携も動き出しており、今後を期待したい。

### ② 今後の改善方策

学科の特性に分けた実習活動先の確保が急務

### ④ 特記事項

なし

### ⑤ 学校関係者評価委員会コメント

\*田中委員(スポーツインストラクター科について)

教育環境は十分に揃っており、業界水準である。実習に関しては様々な選択肢を与えられる環境整備が必要。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

今後、本校入学希望のほとんどを占める18才人口が減少していく中で、学校の存続、および業界への安定した人材共有を継続していくための方策を検討していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

生徒募集を担う他部署(広報室、広報部)とも連携し、適切な生徒募集を行っていく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし



## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中長期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員コメント

なし

### (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

特になし

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

\*なし

### (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

教育活動の1つとしてスポーツ分野に関連したボランティア活動を積極的に推奨しており、関連業界から活動現場の提供頂き、教育理解を図った上で展開している。  
授業およびオープンキャンパス開催などとの調整の都合上、地域に開かれた講座等の開校は現実的に難しい。

② 今後の改善方策

学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

\*末光委員(スポーツトレーナー科について)

在学中のボランティア活動など学外で指導を受ける機会提供は積極的に推進して欲しい。

\*田中委員(スポーツインストラクター科について)

インプットされた学習をアウトプットする機会が多い方が学びの定着として適正である。

### (11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。

② 今後の改善方策

検討していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

\*なし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果からは課題として浮かび上がっているのは「資格取得」と「地域貢献活動」というキーワードとなっている。在校生の満足度を高めていく為に必須受験となっている資格の取得率向上に向けた施策を重点的に実行し、手厚いサポートの中で合格者を増やす。また受験へのモチベーションを維持させていく為に卒業生からの講話など資格取得後の活かし方に関する教育も行っていく必要がある。

地域の関連企業と連携した活動の中で貢献と教育を両立させる活動が求められていると感じている。

その為には、制度や規程に基づいたコンプライアンスを重視した学校運営を継続することも公益性の高い教育機関として重要課題である。

本校の対象生徒が広島とその隣県に限られていることを踏まえてエリア特性を活かした人材育成や社会貢献への取り組みを進め、今後も着実に1つずつ形にしていくことも重要な課題である。